

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2775002542		
法人名	社会福祉法人 由寿会		
事業所名	グループホーム香寿庵		
所在地	大阪府東大阪市稲田新町1-10-1		
自己評価作成日	平成 22年 2月 15日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が自宅で生活をされていたように香寿庵でもして頂けるよう、家事、特に食事を中心とした近所への買物、食材を洗ったり、刻んで調理し、仕上げ、配膳をし一人ではなく多くの人で食事をすすめる事の楽しさや、外食や出前・場所を変えての食事等で喜びを感じて頂いています。併設のデイサービス・特別養護老人ホームの行事などにも参加し交流の場として参加しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775002542&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775002542&amp;SCD=320</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『東大阪で一番良いサービスを提供する法人』を目指し、医療現場から社会福祉へ転身した理事長が社会福祉法人を設立して11年目を迎えています。「介護を要する高齢者の最後の良いすみ家をつくりたい。」「心が弱っている人の気持ちを理解してあげられる仕事をしたい」と、強く願っています。8年前のグループホーム開設に当たって理事長は、【家】⇒【家庭】と言うコンセプトで設計の時点から関わり、認知症の利用者に合わせた家庭的なホームにと考えて建設しました。利用者は家庭的な雰囲気の中で、時には口げんかもありますが、明るく・仲良く・活気のある生活を送っています。隣接している公園への散歩やホームの近くには昔懐かしい商店街があり、毎日の食材などの買出しや外食、歌声喫茶にも出かけます。職員は地域との交流について、地域のゴミ拾い・学童の登下校の見守り等、更に前向きな関わりを提言しています。運営推進会議で利用者家族からの提案・協力により、昨夏はホーム玄関前で夏野菜を栽培し、きゅうり・トマト・ナスを収穫することができました。また、地域住民対象の『アーバンケアで学ぼう会』を開催し、ホームの職員も協力して地域への情報発信基地としての役割を果たしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 3月 11日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	香寿庵独自の目標を作成しており、c w会議でも話をしている。いつでも見られるようフロアーに掲示し、目標を共有している。	ホーム独自の理念として、『①健やかで、安らぎのある暮らし ②ゆったりと時間が過ごせる自由な暮らし ③自分らしさや誇りが保たれた暮らし ④生活の張り合いや喜びがある暮らし ⑤仲間と一緒に過ごす楽しさのある暮らし ⑥地域に開かれた地域とともにある暮らし』という6つの運営目標を掲げています。運営目標は、「法人の理念」と共にホーム内に掲示しています。利用者が、家族・職員・地域住民等と共に、安心してその人らしい生活が続けられるよう支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域開催の祭り・盆踊りの参加・子供会の廃品回収の協力・毎日の買い物を通して近所のお店との交流や施設開催の秋祭り・毎月の学ぼう会居酒屋『庵』に地域の人々やご利用者様と共に参加し交流している。	法人理念にも掲げている「地域に密着した」ホームを目指しています。職員は毎日の散歩や商店街への買い物等での地域との関わり方を更に密にするために、ホーム周辺地域のゴミ拾いや学童の通学時の見守り等、利用者と共にボランティア活動に関わりたいと考えています。法人主催で『学ぼう会』を月1回開催して、地域住民に介護保険を分かりやすく説明し、また腰痛予防体操の指導や絵手紙教室等を地域住民と楽しみながら、地域への情報発信基地としての役割を果たしています。例年地域の行事やお祭りへの参加・市の「ふれあい祭り」への参加や保育園への訪問等に参加し交流を図ります。また、母体法人が主催する「秋まつり」に家族と参加します。年々参加者が増えてきた法人主催の居酒屋「庵」へ利用者も参加し、地域住民と交流の輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の事を説明させて頂き、少しでも地域に出て行く機会を作る努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>日常生活の説明や実際にレクリエーションに参加して頂き又、ご利用者様のリスクを伝えて、色々な意見を出して頂きサービスの向上に生かしている。</p>	<p>概ね2ヶ月に1回、年6回開催しています。会議ではホームでの「ヒヤリハット」事例を報告し、日常生活の中でリスクに対する、気づきと対策を伝え参加家族に状況を理解してもらい意見を聴く機会を得ています。また会議に参加した家族の提案で、家庭菜園を作ることに協力を得て、プランターや苗・材料の提供を受け、昨夏は育成・収穫する楽しみを利用者は得ることができました。年初には1年間の行事予定等も伝えています。運営規程を作成しています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>包括の職員に運営推進会議に参加して頂いているが、市の担当者との連絡・協力には今のところ取り組んでいない。</p>	<p>幸い事故報告書を市に提出するほどの事例はこの1年間なく、市の担当者との直接の関わりは、あまりない状況でした。しかし、昨年の自己評価及び外部評価結果報告書は市の担当者に提出しています。また、最近の運営推進会議議事録は直接市の担当者を訪ね運営推進会議の内容を説明し、議事録を提出する等により、市との協力関係を築くように取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人では身体拘束廃止宣言をしており、また身体拘束委員を発足させ、拘束の事例がなくても話し合いを行い職員も理解している。</p> <p>香寿庵での課題として、鍵は防犯の関係上施錠しているが、一日の内数時間鍵を開けられないか検討中</p>	<p>利用者の安全を確保しつつ、抑制感のない自由な暮らしを支援するために、日常的に家族と話し合っています。また、運営推進会議でもホーム内での「ヒヤリハット」について事例を集計し、報告しています。前年より報告件数が増えています。職員のケア能力が低下しているのではなく、職員の気づきが細やかになり、自発的に報告し、リスクに対して留意する観察ができるようになったことを、報告内容と共に説明し、家族にも理解してもらっています。</p> <p>玄関の開錠については、運営推進会議でも報告し、安全優先の意見を得ていますが、理事長以下職員はホーム内に「閉じ込められている」ような閉塞感を利用者が感じないよう配慮することの重要性に気づいています。隣接特養への渡り廊下への扉は開錠しています。利用者が外出を望まれる場合は同行して散歩するなどの配慮をしています。また、朝には玄関を開放して利用者と共に階段や玄関先を掃除したり、草花に水遣りをしたりしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設実施の研修や外部のセミナーに参加し虐待を見逃さないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、ご家族様に話しをして、実際成年後見制度を利用されたご家族様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の時又、改定の際は十分な説明を行い少しでも不安のない生活を送って頂けるように図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスの設置やご利用者様・ご家族様との話の中で色々な意見を聞いて、cw会議や運営推進会議で反映させている。	家族の来訪時にはできるだけ、職員から声かけをして、日常会話や雑談の中から家族の意向や要望を出してもらうようにしています。運営推進会議でも家族の要望・意見を聴き、運営に反映させています。ホーム玄関に意見箱を設置しています。苦情でなく「玄関やリビングに飾ってあるクス玉が良い」との感想が入っていたことがあります、苦情が入っていたことはない状況です。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はcw会議にて、直接職員の意見や提案を聞くことに努め、反映できるように努めている。また代表者は役職者会議などを通して、出た職員の意見などを聞く機会を設け反映している。	月1回のケアワーカー会議や日々の申し送り時等で、職員は自由に意見を出す機会があります。法人全体の役職会議にはホームの管理者・チーフが参加し、ホームの職員の意見を反映させています。職員は利用者の要望を受けて、「利用者との外出や地域での活動の機会を更に多く持ちたい」と提案しています。法人内異動については希望を伝える機会があります。法人内では職員アンケートや自己評価を提出し、管理者は受け止め対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に2回、職員のやりがいにつながるよう職員の努力や実績を評価できる機会を設けたり、アンケートでの調査や各会議での職員の意見などを吸い上げる機会を設け、職員が意欲を持って働けるような環境・条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日本認知症グループホーム協会や大阪認知症グループホーム協議会への加入にて、職員1人ひとりに合った外部研修への参加や、年間の施設内研修の計画も立て、さまざまな研修に参加できるよう実施したり、各資格を取得できるよう、セミナー等の案内をお知らせすることで、働きながらトレーニングできるよう努めている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会や大阪認知症グループホーム協議会への加入にて、同業者との交流や研修参加の場を作っている。20年度には相互研修へも参加し、サービスの向上に取り組んでいる。21年度も相互研修には参加を予定しており、また21年度より地域密着型サービスの東大阪市介護保険事業者連絡会にも参加し、同業者との交流を深めながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されたご利用者様は環境の変化に対応出来なくて不安な様子が現れたら、声掛けや側に寄り添い話の傾聴等を行い安心して頂くよう努めている又、アセスメントシートに記入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時色々な説明を行っているが、聞いていないと訴えられるご家族様もおられ、信頼関係が出来るまで時間がかかるが根気よく説明を行い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の様子観察や話の傾聴等で必要としている支援を見極められるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に調理・買い物・レクの参加を通して一緒に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、一緒に支えて行きましよう伝え、ご利用者様の受診に行つて下さり、本人を支えて行く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方かの面会は多く、遠方のご利用者様もおられ、一緒に行けないがご家族様が外出に連れていって下さる(馴染みの美容室・食事・受診)	日常的に商店街やスーパーへ買い物に出かけた際、入居以前からの知り合いから、声を掛けられる機会があり、挨拶を交わします。スーパーのレジ係とは、馴染の関係が生まれています。近くの商店の方からも散歩時に声をかけてもらい挨拶を交わします。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の価値観の違いで衝突(口論)多いが、職員が中に入り関わりを持つ事で、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたご利用者様の面会に行かせて頂き、ご家族様と話し合い退院後の不安の解消に繋がるように、他のサービスを伝えフォローしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に安心した生活を送って頂くには、出来ることや出来ない事の把握又、話の中での希望や思いをさぐって感じ取り、cw会議にて検討している。	利用者一人ひとりの思い・希望についての情報収集は、入居時にセンター方式を活用し、情報の収集を行い、職員は更に日常の関わりの中で個々の思いや希望を常に把握し、得た情報は、「私の願いや支援して欲しいこと」等を個別のカードックス(情報インデックス)に記入したり、申し送りノートに記載し職員は共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様の話の傾聴で把握して行き、センター方式に記入を行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を記入して行き、一人ひとりの心身の状態を見極め総合的に把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者の近況報告を面会時や電話で伝え、ケアプラン変更・更新時はご家族様も交え職員共にケアの在り方について話し合っている又、医療的ケアについては、DRも参加で現状に即した介護計画を作成出来るよう努力している。</p>	<p>介護計画書は6ヶ月毎に見直しを行っています。家族に説明の上、署名を得ていますが、利用者の状態の変化に応じて期間内でも、随時に見直しを行います。介護計画書作成時には必要に応じて家族を交えてサービス担当者会議を実施し、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成しています。食事療法が必要な場合はかかりつけ医の参加でインフォームドコンセント(治療の方法の説明・情報提供を受ける)を実施しています。介護計画に沿ったケアプラン実施表(サービス内容・実施記録)を作成し職員全員に周知しています。モニタリングシートにより1ヶ月毎に短期目標に対する実施状況・効果(5段階区分)サービス内容(4段階区分)のチェックにより評価しています。毎日個別の活動表に利用者の一日の生活状態を記録しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>センター方式を取り入れ日々の様子を記入又、D-5シートに気づきを書く事により、介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的低下や認知症が進まれても少しでも香寿庵で生活を希望されておられるご家族様のニーズに添えるようサービスを考え取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店での買い物で知り合いの方と話をしたり又、家庭菜園でとれた野菜を頂く事もあり、地域で楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に受診されていたかかりつけ医に受診されておられるご利用者様もおられ遠方でご家族様も忙しい方や緊急時には特養併設の診療所に週4回の受診・往診が受けられ、看護師も日中勤務しており適切な医療が受けられる。	内科に関しては隣接特養に併設の診療所と連携しており、往診を受けることができます。多くの方はかかりつけ医として受診しています。歯科医の往診は週1回あります。利用者がそれぞれに専門医やかかりつけ医療機関での受診を希望された場合については、希望を尊重した支援をしています。家族との関わりの継続を維持するためにも、家族の同行により受診してもらいます。職員は食事療法が必要な利用者については更にかかりつけ医を交えて家族に理解を求める工夫が必要と考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の様子観察で体調の変化に気づき、診療所の看護師と相談を行いながら適切な看護を受けられるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、面会や電話を通じて病院関係者・ご家族様と情報交換関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族様の意向を聞きながらどのようなケアをして生活を送れるのかは十分に話あって行けるが、終末期については、職員の意識も違い今の所実践にはいたらず。	入居契約時に重度化や終末期にむけた対応については、本人や家族に説明しています。重度化した場合の入浴の対応等については体制を整えていますが、現在はホームでの看取りはしないことを伝えてあります。本人が重度化した場合を考慮した家族の要請により、特養の入所申込書を契約時に同時に提出する方もいます。また、入居後入院した場合や重度化した場合は、その都度かかりつけ医と相談しながらホームで対応できる支援方法を示し、話し合います。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルも備えており、cw会議などでも話あい又法人の勉強会にも参加している、消防署主催の救命救急の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養の職員と共に避難訓練に定期的に参加をしているが、地域との協力体制まで取り組んでいない	災害マニュアルを作成しています。避難訓練は年2回利用者も参加して実施しています。そのうち1回は消防署の指導により実施しています。スプリンクラーを設置し、消火器もリビング横のカウンター近くに設置しています。災害用備蓄の水や食料は台所に1回分は保管しています。また、1階玄関横の倉庫にも備蓄しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	cw会議にて、ご利用者様の尊厳・言葉づかいに気をつけるよう何度も話し合って対応に気を付けている。	法人の職員心得には「ご利用者様は全て、虚弱な介護を要するお客様です」「ご利用者様に、馴れ馴れしい態度、言葉づかいは絶対にやめてください」等が示されており、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した、誇りやプライバシーを大切に言葉かけ、対応を行っています。職員は就職時に守秘義務についての誓約書を提出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手伝いやレクの参加など、ご利用者様の意思を尊重しつつ、話の傾聴などで希望を察するように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日ゆっくりとご利用者様のペースに合わせた支援をしているが、行事等で職員の都合で動いて頂く事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様はご自分で服を選んでおられ、コーディネートがおかしい場合は尊厳を傷つけないように着替えて頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日買い物・調理・配膳・片付けを一緒にする事で張り合いのある生活を送られ又、毎食職員とお話を行いながら一緒に食事を楽しまれています。	併設特養の献立を参考にし、利用者とは相談して好みを考慮しながら決めていきます。食材の購入には利用者も同行しています。昨夏は栽培した夏野菜も食卓に供しました。調理の下ごしらえや盛り付け・下膳、食器洗い等に利用者も得意な分野で参加してもらいます。職員も一緒に同じものを食べながら、会話を楽しみ、さりげなく介助の必要な方のサポートをしています。利用者の誕生日には本人のお好みの献立にし、ひな祭り等行事の時には出前してもらいます。今年はバイキング形式の中華料理の出前を試みました。また、公園を見渡せる隣接特養のテラスで、お弁当を食べる等、日頃と異なった食事を楽めます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士作成の献立を基に調理を行い、毎食後食べた量水分量のチェックを行い、一人ひとり状態を考えて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後・夕食後に口腔ケアをされており出来ないご利用者様には職員が介助を行い、異常があれば歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入して行きご利用者様の排泄パターンを掴み誘導や声かけを行っている、CW会議にてご利用者様の合った、リハビリパンツ・パットの見直しの話し合いをしている。	排泄については個別に排泄パターンを把握し、誘導時もプライバシーを尊重した対応しています。布パンツ着用が可能な方、または、リハビリパンツ着用の方が安定した生活が維持できる場合など、カンファレンスによりケアの方法を選択しています。排泄がほぼ自立している利用者にも1日1回は清潔を維持できていることを確認しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各日のヨーグルトやヤクルトの提供毎朝体操をして頂いて、体を動かす事により、予防に取り組んでいる 便が出ないご利用者様にはカマグを服薬されている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴の施行で希望を聞き入浴して頂いている、入浴拒否のご利用者様には拒否された場合、場面を変え再び声かけを行っている。	入浴は希望すれば毎日入浴できます。利用者の希望に合わせてサポートしています。入浴を好まれない方には無理強いせず、気分転換を図り、時間を変えて再誘導します。2日以上間隔が空いている方には入浴チェック表の日付に印を付けて、職員間で周知しています。今後は入浴の時間帯も利用者の希望に合わせてられるよう検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	就寝の声かけを行い、安心して休 んで頂けるよう支援を行い又、不 安で眠れないご利用者様には話 の傾聴を行い安心して眠れるよ う支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	カードックスやセンター方式に服 薬されておられる薬を記入して、 服薬の誤りがないように日付を 記入、新しい薬を服薬して頂く 時は症状の変化を確認するよう に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	ご家族様から趣味等を聞かせて 頂き折り紙・塗り絵・書き取り・ 計算等 ご利用者様に合った楽しみ事 をして頂き又、不穏・不安にな られたご利用者様には散歩に 行くなどの気分転換の支援をし ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るよう支援している	何か気になり帰宅願望のご利用 者様には一緒に散歩にいついて いる、買い物も車いす使用で外 出、ご家族様との墓参り、食事 等又、香寿庵では、花見・外食 会・特養のテラスにて緑を感じ ながらの昼食このときは、弁 当風の食事を作って食べ、ご利 用者様も楽しんでいます。	毎日の食材の購入には利用者も 同行します。外出の機会が少な い利用者も車椅子を活用して、 気候の良いときは近隣を散歩 し、近くのコンビニへ買い物に 立ち寄ることもあります。特 養の隣地にある公園で体操をし たり、遊具で遊ぶ子ども達と仲 良くしたりして交流を図ってい ます。歌声喫茶店にも行きます 。1年に6～7回は外食に出か けます。桃祭り、お花見、紅葉 狩り等遠出の外出も実施してい ます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っておられるご利用者様に一緒に買い物を行って頂き、食べたい物を購入され、支払いをして頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者様が希望されたり、用事のある時はご家族様と話す機会を作っている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに観葉植物や小物、テーブルには花を置く事により家庭的な雰囲気になるようにしているが、特養と併設しており館内放送が聞こえる為、混乱されないように気をつけ声掛けを行い少しでも居心地よく過ごせるような工夫をしている。	開設以来ホームで共に暮らすインコの「ピーちゃん」は家族の一員です。利用者は毎朝、インコにも必ず挨拶し、リビングルームに和やかさが生まれます。ゆったりしたソファを置いたり、ビングの大きな明かりとりのガラス窓は流線型になっており、リビングに拡がりをもたせる設計になっています。玄関や階段、食卓の照明の傍にも、利用者と職員が作った折り紙のクス玉が吊るされています。カラフルなクス玉は、来訪する家族からも人気があります。食卓にはいつも季節の花を活けてあり、潤いがあります。リビングのフロアは温かみを感じる木質材で床下暖房になっており、利用者・職員は家庭と同様に靴下で生活しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に二人用のソファを置くなど一人になれる空間を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用されておられたタンス・イス・写真を置かれ居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	利用者は入居時に使い慣れた整理ダンスや鏡台や収納ケース、椅子等を持ち込んで、それぞれ安心できる自分の居場所を作っています。家族の写真や塗り絵などの自作を飾り、また職員手作りのお誕生日カードも置いてあります。また、ポータブルトイレを使用している方の居室には、消臭効果がある大きな鉢植えの蘭の造花を、家族が持参し置く心遣いをしています。転倒のリスクがある方は転倒防止のためカーペットなどは敷かない配慮をしています。それぞれの部屋には個性があり、落ち着いて過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	香寿庵内に自立した生活を送れるよう手すり等を設置して安全に使い勝手の良い工夫をしている又、一時的に車イス使用となった場合、併設の特養のエレベーターを使用、出来るだけ長く自立した生活を送れるよう工夫している。		